

## 令和3年度 教育指導における県連盟コミッショナー方針

ボーイスカウト福島連盟

県連盟コミッショナー

大槻 富寛

### 三指

令和2年は、年の初めから新型コロナウイルスの感染が日本国内でも始まり、あっという間に日本全土に広まりました。3月から徐々に活動自粛になり、思うような活動が出来なくなりました。そんな中、県ボーイ部門は、会津鶴ヶ城中心に「県技能大会 ラリーハイク」を集合形態で実施しました。カブ部門では、試行錯誤の中、県連カブー斉隊集会を挙行、各隊の場所で統一したテーマ『チャレンジ章通信博士』に挑戦、内容もオンラインの中継になるなど画期的なプログラムでした。県ベンチャー部門は第23回全国スカウトフォーラムに向けて、ローバーの支援を受けながら、県スカウトフォーラムを成功させ、県連選出のベンチャースカウトを全国スカウトフォーラムに送り出しました。コロナ禍の中、全国スカウトフォーラムも初めての試みとしてオンライン(zoom)で開催されました。それに先立ち韓国連盟主催の国際デジタルジャンボリー2020が開催され、福島連盟からはベンチャースカウト2名、指導者1名の3名が参加しました。県代表のローバースカウトはローバーの全国組織RCJの中核で活動しています。去年の10月からコロナ禍で家の中にいる子供たちに外で遊ぶ機会の提供として、文部科学省委託事業「自然体験あそび ボーイスカウトとあそぼう!」を県内14会場で開始、多くのお子さんと保護者の方々の参加がありました。令和3年も引き続き「新しい生活様式に対応した安心安全な自然体験活動推進事業」をみなさんと進めていきます。2021年は東日本大震災から10年の節目です。大震災以後、毎年の様に日本列島には自然災害が起きてきました。私たちボーイスカウトには「いつも他の人々をたすけます」と『ちかい』ます。2016年から全国のイオンモール等の会場で、地域の子どもとその家族に防災について考える機会を提供し防災教育の一助を担うことを目指し「全国防災キャラバン」を共催し全国に先駆け、今年3月にイオンモールいわき小名浜で「キックオフセレモニー」を開催予定です。GOTOトラベル開始前の頃、公共交通機関を使ったプログラムに当県連所属のビーバースカウトとカブスカウト、当然隊指導者や保護者もいましたが、車内のルールを守れないと一般の人から指摘・苦情がありました。我々の活動は「思いやりの心を育む教育」セーフ・フロム・ハームの精神に裏打ちされた行動でなければなりません。私はコミッショナーとして「活動的で自立したスカウトを育てよう」そのためのキーワードは「振り返り・修正・実行」を挙げてきました。

ボーイスカウト・ベンチャースカウトの進級制度が変わり、新しいプログラムの下で、菊スカウト章、隼スカウト章、富士スカウト章が輩出するため、県連として「面接の手引き」準備しました。今後は、面接の手引きに沿って円滑に進むでしょう。ただ、隊指導者のスキルアップや技能章考査員の委嘱及び周知等の問題があります。「面接」について、教育規定的や進歩制度とは別にビーバースカウトやカブスカウトの日頃の活動に対し、激励を込めてスカウトと接する機会を設けて頂き「団は家族」の絆をコロナ禍の今だからこそ大事にしたいと思います。プログラムの事を考えると隊全体でもスカウト一人ひとりでも対応できる「スカウティングとSDGs」持続可能な開発 17 の目標。アーストライブ(新環境教育プログラム)にも関心を持ちましょう。スカウティングの基本を考えてみましょう。スカウトにどれだけ、自治の体験をさせるのか？ 教育規程では、上級班長および隊付は、隊長が必要に応じて班長会議に、はかったうえで任命をすることになっています。上級班長や隊付を任命し、彼らに隊の運営を任せているという隊は、今、どれだけ存在するのでしょうか？ 隊員数が少ないために、野外活動の基本的なこと（手旗信号、結索法、コンパスの使い方等々）を、学校の授業で先生が教えるように、隊長や副長が直接スカウトに教えているということはないのでしょうか？ 年間プログラムの立案、隊集会のプログラムの立案、隊ハイキング、隊キャンプのプログラムも指導者の手で作成されていませんか？

本来のスカウティングに戻りましょう。スカウト技能を教えるのは、上級班長や班長の役目であり、上級班長から各班長へ、そして班長が班のスカウトへ伝えていくものです。そして、隊付は隊の与えられた任務を分担し隊運営のサポートを行います。前述の実証隊では、ベンチャースカウトがボーイ隊のジュニアリーダー（上級班長、隊付）としてボーイ隊の運営を行う、本来のボーイスカウト隊のあり方について検証しています。隊長の仕事は「おきて」や「日日の善行」の実践をスカウトたちに促し、隊員を激励し、自ら修得させ、その成長を助けていくことです。そして、ジュニアリーダーが、隊集会、隊ハイキング、隊キャンプの計画を班長会議で作成することが、班制教育の 1 つの要素です。ただし、実現するには時間が必要です。本来ならば、班長訓練は隊長が行うべき仕事であって、決して地区や県連盟、日本連盟が実施するものではありません。それは重々承知していますが、現在、全国的に隊での班長訓練が行われていない現状では、どこかで指導者訓練のように見本を示し、ジュニアリーダーおよび隊長の参加によるジュニアリーダートレーニングを実施し、スカウティングのあるべき運営を隊長が修得できるよう支援したい。新型コロナウイルス感染症に対しは、正確な情報と正しく恐れ、楽しくスカウト活動をしましょう。

弥栄